## 【特別支援学校用】

評価結果の概要

令和3年度学校評価 結果

**遠成度(評価)**A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である D: 不十分である

佐賀県立伊万里特別支援学校 学校名

・取組内容の13項目のうち、中間の評価がBとされていた内容は10項目であったが、期末には5項目と減少した。次年度は、Bと評価された実施結果を精査し見直しを図る。

前年度 ・心の教育については、「いじめを見逃さない体制づくり」が推進できていないと感じている職員がおり、体制づくりに関しては改善が必要だと思われる。

・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、大きな行事の事前準備により時間外勤務時間が増加している場合が多く、行事の見直しが検討課題である。会議時間の短縮は職員に定着しつつあり、次年度も継続して取り組みたい。

・感染症の予防対策の徹底は、職員の協力や保護者、関係機関の方々の理解を受け、おおむね実施できている。執務室へパーテーションの設置を要望する声もあり、対策の強化を図りたい。

2 学校教育目標 将来の社会生活を見据え、自立を目指して児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。

① 児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育計画・実践の充実を図る。

② 健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。 8 本年度の重点目標

③ 進路指導の充実に努め、キャリア教育の実践を積み重ねて卒後の自立的な社会生活を目指す。

児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元気よく」「たくましく」生きる力を育む。

・ 重点取組内容・成果指標 中間評価										
)共通評価項目					1 2012				W I I BB 4 - 5 - 1-	主な担当者
	重点取租		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指揮 (數值目標)	261747444	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた 指導・支接による確かな学力の定着	○「特別支援教育の専門性が向上した」と回答する教職員80%以上 (答する教職員80%以上 の「個別の指導計画」における自立活動の 指導及び評価が適切に行われた」と回答す る教員80%以上	・専門性の向上に必要な敬職員研修となる ように、内容等の精選と光実を行うとともに、 計画的に実施する。容及び方法、評価方法 帝を見直、通切に実施することにより、効 果的な学力向上につなげる。 ・自立活動研修会の実施や自立活動に関す る情報発信に努める。	В	・専門性の向上に必要な整備員研修となるように、内容等の精速 と先業を行いなが、計画的に乗換している。 ・億別の指導計量を活用、自立活動の指導について計画、実 施、評価を行い、学力向上につび打ている。 ・自立活動に関する職員研修を2回行った。8月は外部講師を招 聴して研修をすることができた。	A	- 専門性の向上に必要な研修を行った。「特別支援教育の専門性が向上した」と回答した機員が 現象育の専門性が向上した」と回答した機員が 99.1%だった。 (「個別の指導計画における自立活動の指導及び 評価が適切に行われた」について、そう思う。だい たいそう思うと回答した報复は100%であった。 ・自立活動に関する研修会や学習会を実施した 9、情報を発信したりずることができた。	A	・各種所修会や個別指導等、積極的に実施、参加 され、職員の意識も向上されている。 ・学校評価アンケートの回答集計で、専門性の向 上についての間いに対する態員の回答は、「だい たいそう思うが87%だったが、もっと自信を持っ て、最高回答の「そう思う」と答えてよいと思う。	自立活動部·研究研修部
	〇児童生徒一人一人の自立と社会参加 に向けた教育の推進	意欲を持ち、「できた」、「わかった」と、実感 できる授業づくりに向け、各学部で研究授業	・各学部におけるめざす子ども像、キャリア 教育全体計画を踏まえ、一人一人に応じた 目標を設定して日々の指導を行い、それを 踏まえた研究授業を実施する。	В	・全校研究会では、高等部紙工班の授業研究会を行った。全職 員が授業を参観して研協議を行い研修を深めた。また各学部に おいて、校内研究テーマを踏まえ、研究授業を計画的に実施して いる。	A	「児童生徒一人一人が、「やってみよう」という意 欲を持ち、「できた」「わかった」と実感できるよう、 各学部において、校内研究テーマを踏まえ、研究 授業や事例研究会を3回以上行うことができた。	A	・児童生徒個々の能力に応じて指導されている。	教務部·研究研修部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 報や正義の、思動する心など、豊かな 心を身に付ける教育活動	○全ての児童生徒が安心して学校生活を送れるように保護者ともに協力して、いじめを 見逃さない体制でくりを推進していると回答 する教職員80%以上を目指す。	・日頃から、児童生徒と職員の関係を密に し、いじめのサインを見逃さないように心身 両面の把握をする。 ・月一回の学部会などで気になる生徒の情 報交換を行う。	В	- 月1回の学部会や生徒指導節会を利用して、児童生徒の情報の共和している。また、気になる児童生徒については個別の対応を行っている。、いじかについての校内研修を行い、いじめのサインを見逃さないよう勤めた。	A	・気になる児童生徒の面談結果等について、分享 部金、学部会で情報を共有し、支援や指導を行っ ことで、いめを見速さない体制づくりができた。い じめを見速さない体制づくりの推進については、教 職員の99.1%が、そう思う、だいたいそう思うと肯定 的な回答をしている。	A	<ul><li>・今後も、教職員間で情報共有を図ってほしい。 いじめを見逃さない体制づくりに力を入れている のはよいことである。</li></ul>	生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	施していじめの定義等を再確認し、早期発 見、早期対応ができるように努める。 〇年2回のアンケート調査を行う。	・学級活動や生徒会活動でいじめ防止のポスターや標語の作成及び掲示を実施し、学校全体でいじめ防止への雰囲気づくりに取り組む。	A	・いじか問題への対応の校内研修を行ったことで歌\lim員ひとり一人の理解や対応の向上につながった。受講100%) ・また、いじめ防止のポスターや標語の作成や掲示を学校全体で取り組んだ。	A	・いじめについての基本方針の研修やいじめ問題 への対応の研修を行うことで、いじめについての 理解を深めることができた。また、いじめについて のポスターや標語を掲示することで、学校全体の 一体感が生まれた。	A	・今後も、学校と家庭の連携を図り、早期発見、対 応に努めてほしい。 ・上級生から下級生へ、「いじめはだめだ。」という ことを伝える機会を持つのはどうだろうか。	生徒指導部
	◎児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○児童・生徒の将来の自立と社会参加を見 据えた指導・支援ができていると回答する職 員が80%以上を目指す。	・学校とPTAの連携による、施設見学を中心とした進路研修を企画・運営する。 ・本校卒業生の在学中の進路支援を事例とした職員向け研修を行う。	В	<ul> <li>中学部保護者を対象に施設見学を実施した。また、7月の「福 はサービス事業所説明会」では、PTAとの連携を行い進路研修を 実施した。</li> <li>・現在は、事例を扱った研修を行っていない。今後、職員に向けた研修を設定していく。</li> </ul>	A	- 専例、進路情報等、複数の研修資料を準備し 全職員が閲覧できるよう環境を整えることで、個人 のニーズに応じた研修が実施できた。また、就業・ 施設体験のマッチングに向け、職員が牧区内の事 業所を複数見学できるようにしたところ、体験に向 けた支援の充実につながった。	A	<ul> <li>今後も事業所との連携を図ってほしい。</li> <li>・福祉サービスの説明会はとてもよかった。将来に向けての道筋が多い方が安心できると思う。</li> </ul>	進路指導部
●健康・体つくり	○望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成	○「健康に食事は大切であると考える児童 生徒8096以上とする。 ○朝食をとって登校する児童生徒8096以上 とする。	-毎月食育だよりの発行する。 -毎日の給食をホームページに掲載しバランスの取れた食事について情報を発信する。	A	- 毎月食育だよりを発行し、食の大切さについて啓発を行っている。 ・毎日の給食を学校ホームページに掲載し、バランスの取れた食事の例について情報を発信している。	A	・小い・中と高2の児童生徒への意識調査では30%以上の者が「健康のために食事は大切である。」と回答しており、自分の健康のために食べることを大切に思っている児童生徒が育っている。	A	・大人主導だけではなく、児童生徒の自主性も伸ばしてほしい。 「健康に朝食は大切である」ことの児童生徒への 指導について力を入れていく必要がある。 ・パランスの良い、おいしい給食が提供されてい る。	保健安全部
	り組み	○毎日、朝の運動や散歩、ストレッチなどに 楽しんで取り組む。 ○将来の余暇活動にもつながるように、障 書者スポーツの紹介や体験の機会を持つ。	・スムーズに運動ができるように学部単位で の時間調整を適宜行う。 ・スポーツ大会等の競技種目を、体育や生 活単元学習などの時間に取り入れる。	A	毎日、親の運動で運動場や体育館を走ったり、自立活動の時間にストレッチ等を行った。中・高等部においては、体育の時間等にニュースポーツや障害者スポーツを取り入れ、経験を広げている。	A	・朝の運動や自立活動でのストレッチを毎日取り組 んだ。除害者スポーツ競技には、体育の時間だけ でなく、休み時間にも興味を持った生徒が取り組 むようになった。体育等での活動を通して生徒の スポーツ大会への参加意欲も高まった。	A	<ul> <li>・短時間でも、身体を動かし、体力維持を図ってほしい。</li> <li>・毎日運動を続ける時間があり、良いと思う。障害者スポーツも、もっとできる機会があればいいと思う。</li> </ul>	学部主事·各学部体育担 当
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援 学校のセンター的機能の充実	○巡回相談における支援・助言により状況 が改善したと答えた学校等が30%以上とな るようにする。 ○地域のコーディネーター対象の研修会を 年1回開催する。	<ul> <li>・巡回相談における助言では、学校の担当者が実施しやすいよう、具体的、視覚的に支援の提案を行う。</li> <li>・巡回相談後のフォローを継続的に行う。</li> </ul>	В	・巡回相談における助言では、ホワイバードに要点を書いたり、 等真などを提介上たりしながら支援の提案を行った。支援グッズ を持参し一定期間使用してもらう取り組みも行った。 ・地域連携特別支援教育研修会は、新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。	A	・通回相談では、特性や手立てについての説明を 下寧に行い、対象児童生徒の困り感の軽減につ ながった。 研修会は中止としたが、事前アンケートにより先 生方のニーズを把握し、巡回相談の中で情報提供 することができた。	A	・個別の対応等、他校との連携や、継続的な支援 を今後も維持してほしい。 ・職員アンケートで、センター的機能について、更 に、職員の理解と意識向上を図っていただきた い。	相談支援部
	<ul><li>○学校間交流及び共同学習の実施</li></ul>	〇小学部は小学校と年間18回、中学部は 年間1回の学校間交流を実施する。 〇居住地校交流においては、希望した家庭 の実施率を100%にする。	・相手校や家庭と連携をとりながら、日程や 活動内容を決めていく。状況によっては間接 交流に切り替えるなど、柔軟な対応も視野に 実施に向けて計画を進める。	В	- 学校間交流では、小学都は各学年1回目の交流が済み、12月 以降引き続き交流の計画に則り進めていく。中学部は11月に実 施済み。居住地校交流は、希望した児童生徒20名の内2名の辞 退者を除き、ほぼ全員1回目の交流が終了した。	В	・学校問交流は、小学部15回、中学部1回、全て間接交流で実施した。居住地校交流は辞退者を除き 全員交流を実施した。 小学部は希望者15名で41回、中学部は希望者2名で4回実施した。ほとんどが間接交流で実施し、直接交流は4回であった。	В	・コロナ禍で制限等もあると思うが、今後も、状況 に応じた対応をとっていただきたい。 ・直接交流は難しい。オンライン交流などを、積極 的に試していただきたい。	教務部
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	<ul><li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間 の削減</li></ul>	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教師個人が作成した教材のデータベース 化 ・各種校内書類の合理化と簡素化	В	・職員すべてが、時間外在校等時間の上限を守れているわけではないが、全体の時間外勤務時間は昨年度比で減少している。 取組みへの意識は徐々に高まってきている。	В	・機会あるごとに、時間外在校等時間の上限を周 知した。完全に全員が守ることは難しい現状では あるが、職員の時間外勤務時間は減少傾向にあ り、削減についての意識は高まっている。	В	・サービス残業とならないよう、できるところから削減に努めてほしい。 ・時間外勤務が減少傾向にあるのはよい。早く帰ることが、自分にプラスになると思ってほしい。	管理職
	○職員会議や学部会の効率的運営	○会議の精選と時間短縮を図る。	・会議実施の見直し(資料配布のみ、事務 ポータル掲示板の活用等) ・会議運営の見直し(資料の事前配付、協議 内容の精選、会議時間短縮の提案)	A	・職員会議や学部会の実施の可否や時間短縮に向けての取組 かについて、会議を主催する職員の意識は十分高まっており、効 率的な運営をよく検討されている。この方向で、更に取り組み、他 の会議や研修へと波及させたい。	A	<ul> <li>職員会議等の定例の会議にならい、各種委員会 や研修会時においても、事前に資料等を配付して おくことで、説明を簡略化している。それにより、効率的な会の運営が行われている。職員の意識の 変化が実感できる。</li> </ul>	A	<ul> <li>効率化重視だけにとらわれず、内容の充実にも 努めてほしい。</li> <li>事前配付の資料作成に要する時間の実態等も 把握することで、より効果的な会議運営につなが ると思う。</li> </ul>	管理職
2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
	重点取組		日 / 公开 / 公开		中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (教徒目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
<ul><li>○感染症の予防対策の徹底</li></ul>	●新型コロナウイルス感染症をはじめと する様々な感染症の拡大防止に努め る。	〇ウイルス感染防止のためマスク着用及 び、教室や他の施設のアルコール、塩素系 除菌剤による消毒を毎日行う。	・校内の施設設備を使用した後は、担任や 学年団で消毒を行う。 ・職員及び児童生徒の手洗いの励行や手指 消毒を徹底するとともにマスクの着用を促 す。	A	・ウイルス感染防止のため、マスクの着用及び手指消毒の励行を 呼びかけている。また、使用した教材や教室は、その都度、塩素 系酸菌剤により消毒を行っている。現在のところ大きなウイルス 感染はみられない。	A	・「持ち込ませない・拡げない」ことを念頭に置き、 水際対策及び校内外での感染対策の徹底に努め た。使用した教室や道具の消毒も続けている。今 のところ大きな感染拡大事家は見られていない。 引き続き感染予防に努めていく。	A	・大変だとは思うが、引き続き、感染予防策をお願 いしたい。	保健安全部
〇進路指導とキャリア教育 の推進	○進路情報の提供と活用及び就業・施 設体験	○職員、保護者のニーズに対応した情報提供と研修を実施する。 供と研修を実施する。 の連結情報の可視化および掲示板を活用した発信を行う。 〇中学部3年および高等部全生徒の就業・ 施設体験を実施する。	・学部単位および各課程向けの進路研修を 実施する。 ・福祉サービス事業所情報の冊子や毎月 「進路だより」の発行と、掲示版や進路情報 のエリアを活用して情報を発信する。また、これらを生かして体験先を決定できるように する。	В	・7月に「福祉サービス事業所扱明会」として、学校に120事業所 経相き、進路研修を行った。今後も学部単位での研修を計画して いる。 ・現在、「進路だより」の条行は、5.6、7月の条行に関まっている。 しなし、IPでの閲覧数は5月に比べて7月は2倍近い数値と なっている。今後も発行を続け、最優まさけでなく個単の学校外 部にも参考になるような情報を発信し、より良い進路実現に繋が もようにしていく。	A	- 職員に対し、知的課程は学年毎、肢体不自由記 程は学齢毎に記象・態度体験でニアルそも記 日本の毎に記象・態度体をでニアルそも記 日本の世界のでは、1月により、保護者と足並みを揃 スト体験の支援につなげることができた。 - 進路だよりは、1月より、福祉制度のテーマで発 子を続けた。6クセで、年期を基して職業コース の授業内容をホームページにて紹介に、学校、保 提着、企業に対する情報発信の機会を増やした。	A	・企業向け、保護者向けの情報公開を先実し、新 損事業所の開托等を実施し、更なる就業意欲向 上に努めてほしい。	進路指導部

第日 ①・・・本を集める起来 ・現銀内容13日9つら、最終結果でのBは2項目だった。その中の「学校間交流及び共同学習の実施」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からやむ得なかったといえる。次年度も感染の様子を見ながら取り組んでいきたい。「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、大きな行事の事前準備の影響で、月毎に時間外勤務が増加している。しかし、行事の見直にも含め、職員の意識は高さってきている。次年度も観察して限り組みたい。 ・・心の著名の項目で、いしから足速さない体前でくの地理にから入れた結果、昨年度より職員の意識が安善した。今後も、いじめ等に対する意識を高く保ち、「いじめ(では)はない「ではなく、いっなものでも見速さない」という意識を持ち、生徒の指導支援にあたっていくよう、全職員で取り組む。
・・必要名での対策の実施は、職員、保護者、関係機関の方々の選邦を受け、おおむお実施できている。執動を一のハーテーション配備等、物的支援も整ってきつつかる。今後も引き続き、対策の強化を図っていく